

令和6年度 第1回鴨川市子ども・子育て会議

日 時 令和6年7月29日(月) 午後3時
場 所 鴨川市総合保健福祉会館 2階研修室

【出席者】

楠委員、宮崎委員、立野委員、川名委員、石井委員、伊東委員、関口委員

鴨川市：鈴木市民福祉部長

学校教育課：鈴木課長

西条認定こども園：鎌田園長

子ども支援課：嶋津課長、刈込課長補佐、鈴木課長補佐、濱野子ども支援係長、田村主査、
高橋主査、吉野保健師

株式会社ぎょうせい：堀内主任研究員、國吉主任

【欠席者】

榎谷委員、行沢委員、濱田委員

【傍聴者】

2名

<次 第>

1 委嘱状交付

2 開 会

3 挨 拶

4 議 件

(1) 令和5年度ニーズ調査の報告について

(2) 令和6年度ニーズ調査について

子ども・子育て支援に関するアンケート調査のお願い(小学5年生対象)

子ども・子育て支援に関するアンケート調査のお願い(中学2年生対象)

(3) その他

5 その他

6 閉 会

1 開 会【子ども支援課：刈込補佐】

会議の進め方の説明

会議が成立した旨の報告

会議の開会宣言

2 挨拶【市民福祉部長】

改めまして、皆さんこんにちは。市民福祉部長の鈴木でございます。

本日は、大変お忙しい中、また、お暑い中、何やら、栃木県の方では、41度に観測されたとニュースに出ておりました。そういった中で、子ども・子育て会議にご出席頂きましたこと、誠にありがとうございます。また、日頃、子ども支援課の業務につきましては、多大なご理解とご協力を頂いておりますことを、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

さて、本日は、今年度最初の会議となります。本日から、亀田総合病院の伊東様、鴨川市校長会、会長の関口様に、新たに委員をお願いしたところ、ご快諾を頂きまして、本日より、委員としてご意見を頂戴することとなりました。重ねて御礼申し上げます。

本日の会議では、昨年度実施いたしましたニーズ調査の報告、また、これから実施予定でございます、小学校5年生及び中学校2年生を対象としたニーズ調査につきまして、ご検討を頂くこととなっております。皆様方のそれぞれのお立場から、忌憚のないご意見を頂戴しまして、本日の開会に当たってのご挨拶とさせて頂きたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議 件 議長 立野会長

会長が議長として進行

会議録署名人として、川名委員を指名

(1) 令和5年度ニーズ調査の報告について

(事務局及び株式会社ぎょうせいから、参考資料、資料1に即して説明)

伊東委員

このアンケートの解析方法と、総論的なことと個別があるのですが、それをどのように役立てるかについての目的的なところをお聞きしたい。今回第3期の調査ですが、第1期、第2期と比較してどうであったか。

母親の就労状況は前回と変わっていないということであったが、施策として何をしたのか、評価が必要なのではないか。まずは施策についての評価としてアセスメントいただいた方がよろしいのではないかというふうに思いました。もともとこれを調査しても、個別でインタビューしたわけではないので、アンケート調査という方法なので、どうしてもざっくりしたものしか得られないかと思いますが、そしてこの優先順位が高ければ優先されるということになるのか、数が多いから多くやるということでは多分ないのだと思います。

そもそもこのデータをどのように活かすかということが、前回議論されていなかったのか、なっていないのかわからないんですけど、そういうことがあったらいいのかなというふうに

思いました。だからそのためには前回との比較がないと議論ができないと思います。そこをご提示頂きたいなと。また、比較するうえでは、全国との比較はどうか。本市の過去と現在の比較なのか、同規模の他自治体との比較なのか伺いたい。

やはり全国との比較を出すか、もしくは過疎地域において比較したいのか、そもそも先ほどの目的に変わるんですけど、鴨川市として何をやりたいのか、別に東京都に勝ちたいとかということは多分ないと思うんですよね。東京が素晴らしいかどうかはわからないんですけど、経済的にお金としてはあると思うんですけど、そういった意味では過疎地域としての比較だとか、そこを何のためにやるのかというところを明確であれば、やっぱり意思決定に役立つのではないかなと思うので、そこは前回まで議論されたかどうかはわからないんですけど、そういうことがあってであれば、もう少し解析するにあたって、どこと比較しましたとかということが言えると思うんです。そのヒストリカルコントロールとして過去と比較してこうだったということと、同じような状況の他地域と比較してこうだった、そしてここにはこういったことが自由意見から推測されるので、こういった施策に結びつけられるだろうというふうにやるのがいいのかなと思ったので、そういったところを次回以降アセスメントすると、最終的にはこの場で決めるんだと思うんですけど、推測されることとか、そういったところを教えていただけるといいかなと思いました。

株式会社ぎょうせい

調査の目的としては、第1期、第2期は基本的には国が調査票のひな形を作ったものに、プラスアルファ数問各市町村が設問を乗せてやってきた。潜在的ニーズを拾うということをしているので、やはり保育料とかが課題に出てしまうので、こんなにいると、例えば保育園とかこども園もいくつも作らなければいけないみたいな結果が全国で出たので、それは補正してもいいことになっています。ということで、第1期、第2期の調査、そして第3期も潜在的な保育ニーズも含めた保育ニーズや教育ニーズというのがどれくらいあるかというのがまず主眼になっている調査ということを理解いただきたいと思います。あと今回は少しプラスアルファの部分はより多めに足したところではありますが、例えば理想の子どもの数とかというのは、今回こども計画にする場合には少子化対策というような要素を入れておく必要があるということで、今回は理想の子どもの数が少ない方の理由でも聞くとやはり経済的支援という形になってしまっていますが、まだまだ経済的支援が足りないので、そこを支援していくという話になるかもしれませんが、現実的にできる部分とできない部分というのがあるかと思いますが、一応現状として保護者がどういうふうに考えているかというのをひとまず調べておく必要があります。

また主観的な経済状況ではありますが、生活に余裕があるかというところでの世帯と、ゆとりがある世帯とゆとりのない世帯で子どもへの接し方が変わっているのか、虐待の話にもありましたけれども、そういうところとクロスしてお示しはしたいと思っております。あとは仰るとおり、全国との比較という意味では、全国の数字というのは国の方ではまとめていません。例えば我々が今やっている自治体様との比較、ちょっと名前は出せないかもしれないんですけど、この辺りのこういう人口規模の市町村ではこれぐらいの域になっていま

すというのをお示しできるかと思しますので、ちょっと事務局と相談させて頂いて、そういった現状の予想の自治体との比較のデータもいくつか示させて頂こうと思います。それから最終的にこのアンケートがダイレクトに施策を評価することになっているかという、なっていないと思います。

計画の進捗というのはまた別の目的、項目でやられるのがいいのかなとは思いますが。一部の施策の一部のカードに関しては、このアンケート調査結果のこういう部分を使うというのはありだとは思いますが、全体的にこのアンケートで今回の計画を評価していくという形にはなっていないと思います。

伊東委員

先ほど、小学生と乳幼児で比較方法が違う。イエス、ノーや4段階の評価は、なぜそうなったのか。意図があったのですか。

最終的にこれがすごく意思決定に関係しないのであればざっくりなんで、どちらでもいいだろうということになるんですけども、そういった意味でいろんなところが細かく気になったんですけど、気になりましたというコメントです。

(2) 令和6年度ニーズ調査について

子ども・子育て支援に関するアンケート調査のお願い(小学5年生対象)

(事務局及び株式会社ぎょうせいから、資料2、資料4、資料5に即して説明)

伊東委員

設問は、良くできている。

貧困などを聞くにしても比較対象はあるのか、設問はどのように作ったのですか。

株式会社ぎょうせい

他の自治体でやっているものを参考としています。例えば、追加案の問4は、東京都が実施しているものを参考としました。

伊東委員

比較対象が明確で、妥当性があった方が良い。

質問の実際のアンケートの方法は、匿名性がある、こちらの事務局でやるのか、学校でまとめるのかについて、メリット・デメリットが両方あるかと思うので、つまり、担任が個人のことを知る機会にもなるかと思ったり、知られたくないから真実を書かないということもあろうかと思うんですけど、それについては議論されてますでしょうか。

事務局

小学校5年生と中学校2年生、まさに学校に行っている子どもたちですので、でもやはり

回収率のことも考えたりもしたいと思います。夏休み中に、学校に相談して、その中でご協力いただける点について、相談させていただければと考えています。

関口委員

資料4の削除検討というところが、丸がついているのはどうしてですか。

事務局

資料4の削除検討は、小学校5年生が26問という設問数が自身で答えられるかどうかというところで、削除検討として丸を付けています。回収率を上げること、答えやすくするというので、ある程度その設問数を整理していくということです。

立野議長

はい、ということで、いかがでしょうか。校長会として、子どもが26問答えるというのは、いろいろな方法が合わさっています。

関口委員

いろいろな方法があろうかと思います。今、子どもたち1人1台タブレットを持っているので、そのタブレットで全て回答も可能ですし、その場合、職員が、例えば5年生の担任の先生がつきながら、回答を一つ一つやっていくということも可能ではありません。また、家でそれぞれ回答してくださいというようなやり方もできます。また、紙媒体でそれぞれ担任が確認しながらやれば、ほぼ回収率は100%になりますので、いろいろなやり方があるかと思えます。もちろんご協力するのは全く問題ないですし、このデータも学校の方でも活用させて、ある程度見させていただければありがたいなという気持ちもあります。ただ、少し相談をさせていただければと思います。

あと、質問数については5年生ですので、26くらいでしたら、ある程度はいけるかなと思うのですが、例えば学習のところは、個人差が大きく出てしまうかなという気もします。問7のわからないことはありますか？くらいはいいのですが、教科によってとか、いつの頃からというのは、個人差が結構大きいので、あと、好き嫌い、教科によっても好き嫌いもありますし、回答の個人差があって、正確性は少し欠けるかなというような気持ちもします。勉強が苦手とか、運動が苦手とか、子どもたちの個性によって様々ですので、結構個人差が、正確な数字というよりも個性が出やすい結果が、比較的不安定になろうかなという気はします。

立野議長

質問を削除というよりは、回答の部分を少なくするとか、答えやすい回答にするとかですか。

関口委員

問 16 も 10 個の項目があるので、結構時間かかったりするかなという気持ちもありますので、少し精査をしていただけたら、時間かからずにやりやすくなるかなと思います。

事務局

今の関口委員のお話を受けて、これからそういうわけで、校長先生を中心にご相談させていただきたいと思っています。小中学校の校長先生 9 人いらっしゃいますので、そのご意見を踏まえ、この削除のところを学校の児童の皆さんの様子からどうかというのをご意見伺って、項目を削除、またはそのままということにさせていただければありがたいと思います。参考までに、ぎょうせいさんに聞きましたら、例えば子どもさんによって難しく無回答というところが、いくつかあっても、それはそれで集計は可能ということですので、全部読むのが大丈夫な子と、少し難しい子がいると思いますが、そのまま全部載せるということも方法の一つかと思います。そういうふうに考えてさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

伊東委員

3 年前に生理用品を買えないのが貧困と取り上げられた。生理用品の購入可否についても設問に入れますか。

事務局

各学校に設置済みです。

立野議長

アンケートの配布の時期はいつですか。

事務局

9 月を予定しています。

子ども・子育て支援に関するアンケート調査のお願い（中学 2 年生対象）
（事務局及び株式会社ぎょうせいから、資料 4、資料 4、資料 5 に即して説明）

関口委員

特別支援の子がいるため、漢字に仮名を振ってほしい。
小学 5 年生では、担任がついても難しい可能性があります。

株式会社ぎょうせい

ウェブ調査では難しい。漢字のあとに括弧書きでできるか考えます。

伊東委員

タブレットの読み上げ機能は使えますか。

事務局

今回は、ロゴフォームという環境で行いますが、ルビや読み上げ機能について、事務局で確認したいと思います。

株式会社ぎょうせい

別紙であった意見を設問に反映するに当たり、設問を入れられるものの設問数が増える。決定はどうしますか。

事務局

立野委員、宮崎委員の意見は設問として反映したいと考えます。ぎょうせいと相談したいと思います。事務局へ預けて頂きますようお願いいたします。

(3) その他

無し

5. その他

無し

6. 閉 会

本会議の内容を確認したので署名する。

令和6年11月19日

会議録署名人 川名 秀和